

氏名	太田与洋 (Ohta Tomohiro)	
所属・役職	研究参与	経験年数(うち本業務の類似業務従事年数)
		11年(40年)
専門分野 関心分野	産学連携 イノベーション MOT R&D・マネジメント 震災復興 地域振興 ソーシャルイノベーション	
所有資格	博士(理学)	
経歴(職歴/学位)	主な職歴: 東京大学産学連携本部 教授(産学連携研究推進部長)、 東京大学大槌イノベーション協創事業 運営代表者、 東京大学大学院農学生命科学研究科特任研究員、 NEDO プログラムマネージャ(材料・ナノテク)、 (株)東京エレクトロン総合研究所 所長、(株)川崎製鉄ハイテク研究所 グループリーダー 学位等: 東京大学工学部、オハイオ州立大学化学(M.S)、理学博士(東京工業大学)	
所属学会等	研究・技術計画学会、	
業務の実績		
科研費 (科学研究費助成)	イノベーションに繋がる産学連携共同研究創出の実証的研究(経営学) 2009年度~2011年度 研究代表者 多対多参加方式産学(官)連携モデルの組織デザインとその実証的検証(経営学) 2012年度~2014年度 研究代表者	
調査研究報告書	平成23年度文部科学省「大学等産学官連携自立化促進プログラム【機能強化支援型】」 シンポジウム、「中長期的な視点に立った多対多型産学官連携モデル」(主担当)	
主な関連論文・発表	<p>○T. Ohta, K. J. Lee, K. Kakehi, Role of Formal Boundary Spanning Structure and Changing Patterns of University-Industry Collaborative Research in University of Tokyo, PICMET2008, pp231-239</p> <p>○太田与洋、黒倉壽、鎌田実、「東京大学大槌イノベーション協創事業」における産学公民連携、研究・技術計画学会、年次学術大会、29、2014</p> <p>○太田与洋、峯崎裕、逢坂宏、山本毅、武博一、被災過疎地支援事業への多対多型産学公民連携の試行(1)、研究・技術計画学会、年次学術大会、28、2013</p> <p>○太田与洋、産学官連携創出マトリックス、研究・技術計画学会、年次学術大会、27、2012</p> <p>○太田与洋、鎌田実、前田展弘、高塩仁愛、新しい産学連携「参加方式共同事業」の事後評価-東京大学産学コンソーシアム「ジェロントロジー」を例として、研究・技術計画学会、年次学術大会、26、011</p> <p>○尹 諒重、太田 与洋、松井 功、企業業績と研究開発活動との関係に関する探索的分析、研究・技術計画学会、年次学術大会、26、2011</p> <p>○一色俊之、太田与洋、山田宏之、「イノベーションを生み出す国家プロジェクト」創出に関する考察、研究・技術計画学会、年次学術大会、26、2011</p> <p>○太田与洋、鎌田実、秋山弘子、箕一彦、共同研究ではなく共同事業としての新しい産学連携スキーム、研究・技術計画学会、年次学術大会、24、2009</p> <p>○本間高弘、太田与洋、山崎暢也、大学ソフトウェア技術移転における課題と取り組み、研究・技術計画学会、年次学術大会、22、2007</p>	
業務名		
業務名	業務内容	履行期間
産学公民連携プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネジメント、調査研究 東京大学大槌イノベーション協創事業 運営代表者 多様なステークホルダーの参加する被災地復興支援大型 産学公民連携の企画・組織マネジメント	2013/1~2015/6

<p>大学等での産学連携制度の開発・設計・実装、調査研究</p>	<p>産学連携制度・スキームの開発・設計・実装、モデル設計 プロジェクト企画、プロジェクト運営、調査研究 東京大学産学連携本部 教授 国立大学法人化にともない産学連携本部産学連携本部・研究推進部の立上げ。その制度・スキーム開発・設計・実装。 NEDO プログラムマネージャ（人事交流、2009/7～2011/6） ナノテク・材料部（後にナノテク・材料・電子情報部）でプログラムマネージャとしてプロジェクト企画・マネジメント。</p>	<p>2004/5～2013/3</p>
<p>R&D 実務</p>	<p>企業 R&D での研究開発とそのマネジメント 東京エレクトロン(株) 総合研究所所長、技術開発センター長、 メタル製膜プロセス部長 川崎製鐵(株) ハイテク研究所 グループリーダー</p>	<p>1986/6～2004/4</p>